

平成 23 年 4 月 11 日

報道関係各位

東京都世田谷区太子堂 2-16-5

株式会社 QLife (キューライフ)

---

全国の医師 8 割が、個人的には「被災地に行きたい」  
ただし医薬品不足や停電対応など、自院の体制見直し迫られる

---

日本最大級の病院検索サイト、医薬品検索サイト、医療情報サイトを運営する総合医療メディア会社の株式会社 QLife (キューライフ / 本社: 東京都世田谷区、代表取締役: 山内善行) は、『「大震災の全国の医療現場への影響」実態調査』を発表した。インターネット経由で、東北 6 県と茨城県を除く全国の 20-60 代の医師 402 人 (病院勤務医 245 人、診療所開業医 157 人) から回答を得た。

それによると、大震災の影響で医薬品不足を心配する声は、首都圏と首都圏以外とでほとんど差がなく、全国で 7 割の医師が自分の患者への医薬品不足の可能性を指摘した。具体的には、「チラーゼン」「漢方薬」「ディナゲスト」などが挙げられた。

また、医薬品不足以外でも、様々な不安に医師は直面していることが分かった。具体的には、「停電」「人員不足」「患者増減」「放射能」「水・食料不足」「施設改修費用」など。特に計画停電実施地域やその近接地域では、停電関係の混乱を心配する声が圧倒的に多い。

それらの不安要素の解消は困難な様相だ。特に、「停電」「人員不足」関係では、具体的な手立てがなく「耐えるしかない」と考える医師も半数近くに上る。

一方で、8 割の医師が、被災地の医療支援に「行きたい」と考えている。ただし、実際に行動に移したりその可能性が高い医師は 12% に留まり、なかなか自分の現場を離れることは難しいようだ。

被災地の医療を支援するため、義捐金・寄付などは広く行われており、「長期処方」「被災地からの患者受け入れ」を行う医師も 2 割を超えた。

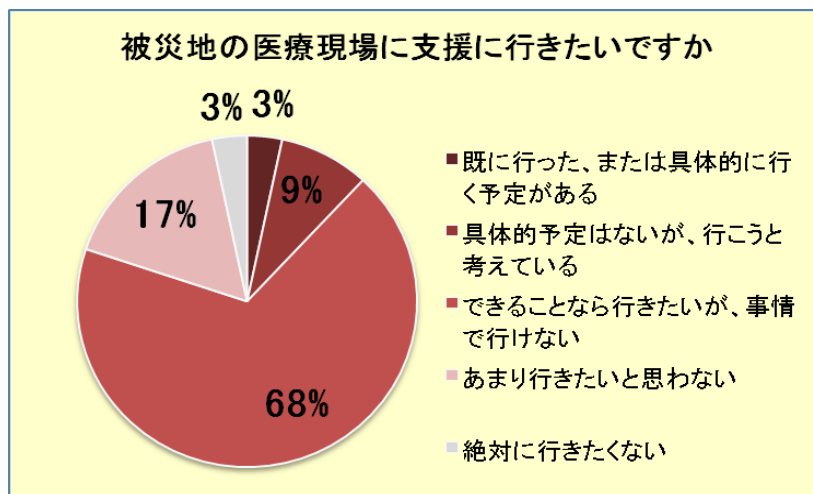
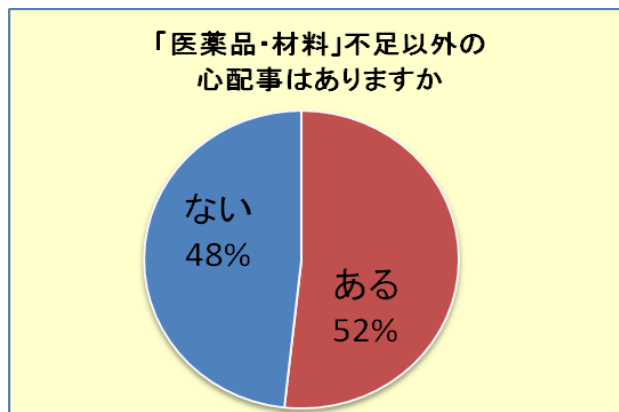
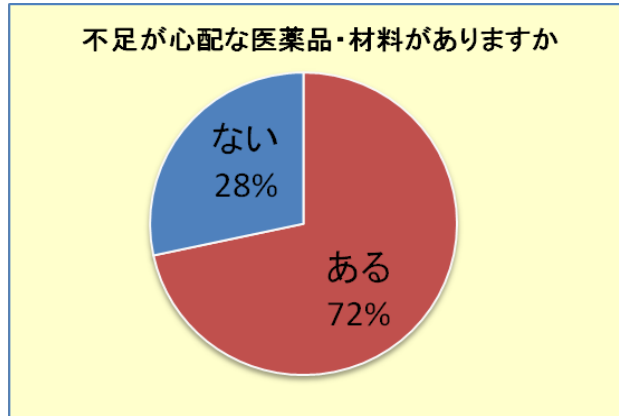
また「大震災のような災害への備えとして、新たに知りたくなった情報」としては、「医薬品・電力の確保」に関するもののほか、「限られた医療資源で対応するノウハウ」といった現場で役立つ知識が求められている。

■ 詳しい調査内容は、以下の記事をご覧ください。

⇒ <http://www.incho.jp/research/daishinsai/entry6986.html>

■調査報告書は、以下からダウンロードできます。

⇒[http://www.qlife.co.jp/news/110408qlife\\_research.pdf](http://www.qlife.co.jp/news/110408qlife_research.pdf)





---

<株式会社 QLife の会社概要>

会社名 : 株式会社 QLife (キューライフ)

所在地 : 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂 2-16-5 さいとうビル 4F

代表者 : 代表取締役 山内善行

設立日 : 2006年(平成18年)11月17日

事業内容: 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念: 生活者と医療機関の距離を縮める

サイト理念: 感動をシェアしよう!

URL : <http://www.qlife.co.jp/>

---

本件に関するお問い合わせ先:

株式会社 QLife 広報担当

TEL : 03-5433-3161 / E-mail : [info@qlife.co.jp](mailto:info@qlife.co.jp)

---